

No.

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

2023 年度 家庭 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	家庭基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・探究コース5組
使用教材	家庭基礎（東京書籍）Live View（東京書籍）			担当者	安日 恵子		

目 標	(1)人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 (2)学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 (3)家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	ステップ3 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を確実に身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫と創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。
	ステップ2 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
	ステップ1 家庭生活を向上させるために必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して考えている。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・小テスト、定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

講義形式の授業の他に、グループワークや実験・実習など、自分たちで調べて、自分の考えをまとめ、発表する学習活動も多くあります。毎時間、学習プリントを使用します。プリントはすべて配布したファイルに綴じて下さい。予習・復習は必要ありませんので、授業の中でしっかりと考えて、新たな価値観を作り出し、よりよい生活のための行動変容を目指していきましょう。

担当者より

小中学校の家庭科では「家族の一員」としてどう生活にかかわるか、について学習しました。高校の家庭科では、「自分が主人公」としてどう生活を作っていくか、どう社会とつながっていくか、について学習します。「自分で自分の生活をつくる」、「生活をする人の視点から社会を見る」、この2つが、高校家庭科の目的であり、自立した大人になるために必要不可欠な力です。様々な情報が氾濫し、生活の安全性が脅かされつつある今日、性差に関わらず、すべての人が考えなければならない大切な力です。一緒にじっくりと学んでいきましょう。

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4月	◇家庭科の学び方 【家族・社会との共生】	4	【 ねらい 】 人の一生を見通しながら、家族や家庭の在り方を知り、自分らしい人生を歩んでゆくために必要なことを考える。	
5月	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第4章 超高齢社会を生きる 第5章 共に生き、共に支える 第11章 これからの生活を創造する	6	【 内容 】 複数にまたがる章を横断的に捉え、「家庭生活を取り巻く社会問題」というテーマでポスターセッションを行う。 ・「標準家族の存在」と「家族の多様化」の矛盾から、様々な社会課題が表面化していることに気付く。 ・新聞記事や進路課発行の「読む」などを活用し、「家庭生活を取り巻く社会問題」を自分で探し、その背景や要因などを分析する。 ・自分が取り上げた社会問題に関して、教科書や資料集で現状を調査し、ポスターセッションをして内容を共有する。	
6月	【生活の自立】 第10章 持続可能な生活を営む	6	【 ねらい 】 カカオの児童労働を一例に、フェアトレードの考え方や企業社会的責任(CSR)について考える。	
7月		4	【 内容 】 ・チョコレートに関係している様々な立場についてのジグソー学習を通して、世界で起こっている問題の多くが、私たちの生活に起因していることに気づく。 ・環境や労働者の人権に配慮した食材を使用した調理実習(1回目)を行い、市場の動きを知り、自分たちにできることを考える。	
8月	夏季休業	2	【 ねらい 】 現代の食生活の問題を知り、その問題を解決するための知識や技術を、実験や実習などを通して身につける。	
9月	【生活の自立】 第6章 食生活をつくる	4	【 内容 】 ・他教科での既習事項や栄養素などに関する理論学習と実験・実習を関係させ、日常生活での実践力につなげる。(調理実習2回目)(糖分測定実験) ・食物調理技術検定4級に合わせた内容で実技試験を行い、基礎的な調理技術の定着を図る。 ・グループ活動やペアワーク等を通して、自分の考えを深めたり広めたりしていく。 ・日本型食生活のよさを実感し、日本の食文化の継承する。(調理実習3回目)	
10月	前期末考査	9		
11月	【生活の自立】 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	6	【 ねらい 】 住居選択や家具購入などの疑似体験を通して、消費や契約における課題を認識し消費者として責任をもった行動をするための土台を作る。 【 内容 】 ・住宅情報誌や広告などを活用し、数年後の1人暮らしをイメージしながら部屋探し、空間設計、生活費の検討などをシミュレーションをする。 ・購入と契約、消費者の権利と責任について正しい知識を習得し、自立した消費者を目指す。	
12月	【生活の自立】 第7章 衣生活をつくる	6	【 ねらい 】 自分の生活と社会とのつながりに気付き、持続可能な衣生活に寄与するための方策を考える。	
1月	ホームプロジェクトの実施	8	【 内容 】 ・便利な衣生活の裏側に目を向け、持続可能な衣生活を目指して、自分たちにできることを考える。 ・既製服の選択や管理などの学び、手入れ方法の一つとして、簡単な制作を通して基本的な修繕技術を身に付ける。 【ねらいと内容】 冬期休業中に、自分の生活の中から課題を見つけ、学んだ知識と技術を生かして、どうしたら解決できるか考え、解決の方法を計画・実践し、レポートにまとめる。休み明けの授業で、各自の実践を発表し共有する。	
2月	【家族・社会との共生】 第3章 子どもと共に育つ	2	【 ねらい 】 ・子育てにおける親や社会の役割、乳幼児の特徴を理解し、自分が将来どのように子どもと関わることができるか想像できるようになる。 ・現代の子どもを取り巻く諸問題に目を向け、命と真剣に向き合う姿勢を身に付ける。	
3月	後期末考査	3	【 内容 】 ・簡単な保育体験を通して、親や社会が協力して子どもにかかわることの重要性を実感する。 ・DVDの視聴を通して、命の重みと特別養子縁組制度などの子どもの福祉について考える。	
合計時数		60		